

(第6条関係)

## 事業計画

事業名	公共サイン改善事業
団体名	公共サイン研究会
事業担当課	松戸市 街づくり部 都市計画課

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p><b>松戸市における公共サインの改善</b></p> <p>松戸市街では公共サインを含め各種案内表示が乱立しており、景観の阻害や案内表示の分かり難さという問題を抱えていることから、公共サインを改善する必要性は高い。公共サインの改善に関しては、特に景観の観点からその必要性が問われてきたが、近年ではまちのアイデンティティ創出の観点からも、各地の自治体での取り組みが進められている。</p> <p>このような背景から、単なる視認性向上や多言語対応等だけでなく、統一したイメージカラーや字体、独自デザインのピクトグラム等を設定し地域性を表現する事例もみられる。しかし、松戸市は地域により様々な特徴を有しており、単一のイメージで語ることは難しいと考える。</p> <p>本事業における公共サインの改善は単に「きれいに整える」ということを目指すのではなく、市民が松戸のアイデンティティとして認識するようなアイコンとなり、市内外へ松戸の魅力をアピールするツールとなり得るような、公共サインを通した「松戸のジャンプアップ」を目指すものである。</p>
事業の目的	<p><b>松戸市における公共サイン改善の活動の普及と、地域の声のフィードバック</b></p> <p>上述の課題を踏まえ、私たちは行政と松戸の地域住民がともに公共サインについて考えるというプロセスを重要視しており、以下の目的を設定する。</p> <p>① 活動の普及に努め、市民と共に公共サインについて考えることを通して「今よりもっと住みやすい松戸」を考える。</p> <p>② 松戸市の街全体のイメージアップにつながるサインガイドライン策定の一部に寄与する資料として、活動を通して得た地域の声をデータとして取りまとめ、行政及び市民へのフィードバックを行う。公共サインを検討することで、地域のアイデンティティを見直すタイミングとなり、ひいては地域のコミュニティ醸成や、絆を深めることにもつなげることができる。</p> <p>なお、公共サイン改善事業は3ヶ年計画とし、最初の2年間で調査を行い最後の1年間で成果物としてまとめるという流れで行う。平成30年度協働事業にて1年目の事業を実施しており、この度は継続する2年目の事業内容として提案をさせて頂く。</p>
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>① <b>【公共サイン定期便】</b> 公共サイン改善事業の活動について、市民に広く知ってもらい活動の裾野を広げることを目的に、3か月に1回を目安に定期新聞として「公共サイン定期便」を発行する。記事としては、<b>公共サインを知り、松戸のまちを考える</b>のヒントとなるような内容とし、本研究会の活動紹介や下記WS等のイベント広報だけでなく、公共サインに関する基礎的な情報（歴史、役割、種類など）や、景観やバリアフリー等公共サインに関連する様々な活動をしている市民へのインタビュー等、</p>

事業内容  
(続き)

毎回テーマを設定して掲載する。

なお、公共サイン改善事業に関する市民との意見交換の宣伝媒体としても活用することとし、市民の声を受け付ける e-mail アドレスや団体の HP の URL を毎号記載し、そこに届いた市民の方々からの意見は、本人の承諾を頂いたうえで公開することも検討する。

また、配布の方法については、紙媒体及び Web の両方を用意し、市内公共施設への配架、景観等に関連する（建築などの）協力団体への配布、本研究会の HP への掲載等を行う。また、日本語だけでなく英語や中国語で概要を記載することで、今後公共サイン自体にも必須となる多言語対応も行い、より多様な市民へ広く情報提供できるよう配慮する。

②【ワークショップ（以下、WS と記載）】

松戸市のアイデンティティと市民の公共サインに対する気づきの発掘を目指す。内容については、松戸市が発行している「水とみどりと歴史の回廊マップ」にてルート設定されている市内 6 地域において、地域毎の特徴やサインに取り入れたい地域イメージ・目指したい地域イメージを共有することとする。WS の企画から実施に関しては専門家（武蔵野美術大学非常勤講師：田邊学氏、千葉県建築士会：神谷繁樹氏、両氏共に松戸市景観アドバイザー）を外部アドバイザーとして招き、地域のアイデンティティ発掘と共有という目的を果たす WS となるようアドバイスを受けながら進める。平成 31 年度は、地区関係者及び千葉県建築士会松戸支部と連携しながら常盤平地区、小金北地区、小金南地区を対象地域とする。WS の広報については、①の公共サイン定期便や市の広報への掲載、市内公共施設へのチラシ配架等を想定している。

③【公共サインガイドライン策定のための基礎資料】

定期便の作成・発行を通して市民や民間事業者等から得たコメントや、WS の内容に基づき、松戸市における公共サインガイドラインの策定のための基礎資料の一部となる成果物を作成する。なお、資料作成にあたり外部アドバイザー（上述②と同様）に協力頂き、現実に即した実効性の高い資料作成に繋げる。

④【公共サインの景観協議対象化に向けたフロー作成】

松戸市における景観協議対象として公共サインを位置付けるため、協議に関する資料の取りまとめ及びフローを作成する。

2 スケジュール：①～③については下表に沿って進め、④については公共サイン景観協議対象化に向けて年間を通し事業担当課と進める。

月	① 公共サイン定期便	② ワークショップ(WS)	③ 基礎資料
4	テーマ設定、取材	企画開始	企画開始
5	執筆、編集、校正	担当課と内容協議	担当課と内容協議
6	第 1 号発行	第 1 回 WS 準備	データ収集
7	テーマ設定、取材	第 1 回 WS 実施	データ収集
8	執筆、編集、校正	成果まとめ	データ収集
9	第 2 号発行	第 2 回 WS 準備	資料構成検討
10	テーマ設定、取材	第 2 回 WS 実施	専門家との打合せ
11	執筆、編集、校正	成果まとめ	構成決定
12	第 3 号発行	第 3 回 WS 準備	データ作成

	1	テーマ設定、取材	第3回WS実施	データ作成
	2	執筆、編集、校正	成果まとめ	編集
	3	第4号発行		完成
協働の必要性	<p>主にサインの設置者となる行政・施設管理者の視点、情報を受けとる住民・利用者の視点、そしてランドスケープを学ぶ学生ならではの視点という、行政・市民・学生が協働で行うことで、多様な視点で公共サインを考え、改善することができる。</p> <p>また、本研究会が市民活動団体であるという点を活かし、市民の率直な意見を集めると共に、それらの内容を客観的に取り纏め・分析を行ったうえで行政へ確実につなぐことができると考えている。さらに、協働で行うことによって公共サインは行政のものというイメージから地域や利用者のもというイメージへ変えることができると考えている。</p>			
事業実施の役割分担	<p>■団体：</p> <p>①「公共サイン定期便」の企画・制作・発行・配布</p> <p>②「ワークショップ (WS)」の企画・運営</p> <p>③「基礎資料」のためのデータ作成・編集</p> <p>④公共サインの景観協議対象化に関連する活動資料取り纏め・提供</p> <p>■担当課：</p> <p>①「公共サイン定期便」への寄稿・情報提供・関連協力会社への配布・市民からの意見受付</p> <p>②「ワークショップ (WS)」の事務局・市HPの提供 (団体リンク)</p> <p>③「基礎資料」のための情報提供</p> <p>④事業内容及び実施状況について松戸市景観形成庁内調整会議での共有、公共サインの景観協議の対象化に向けた協議フローの作成</p>			
既存の事業からステップアップした部分	<p>本事業の成果をもとに将来的に公共サインに関するガイドラインを策定することを見据え、それに先立って設置される公共サインについても事業成果が反映されるよう、景観協議対象として位置付けるための準備を行う。</p> <p>具体的には、庁内の各部局においてサインを設置する計画が出た時点からどのようなフローで実施すべきかを示し提案する。</p>			
事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共サイン定期便の発行を年間4回以上行う (3カ月に1回発行)</li> <li>・WSは地域毎に行うが、各地域共通のディスカッション項目を3つ以上設定し、公共サインガイドラインの基礎資料として様々な市民の意見を集め、取り纏めることができるものとする。</li> <li>・住民と学生で共に行う各地域のWSを計3回以上 (必要に応じて各地域2回) 開催する。</li> </ul>			
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の公共サインに対する意識を、「行政のもの」から「市民・地域のもの」へ変化させる動機付けとなるような活動を継続していきたい。</li> <li>・公共サインを通して市民が松戸のまちについて考え、ボトムアップで公共サインに関する活動を市内全域へ拡大させていきたい。</li> </ul>			

(第6条関係)

## 事業の予算計画(収支予算書)

【労力換算(限度額算入)】

(単位:円)

区分	科目	金額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 442,680	別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科目	金額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 6,270	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	ワークショップ参加費	¥ 12,000	100円×20名×6回
	自己資金の合計額 (B)	¥ 18,270	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 163,000	
	合計額(D)=(B+C)	¥ 181,270	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 120,000	外部アドバイザー謝礼 打合せ20,000円×6回
	消耗品費	¥ 1,500	事務用紙 A4 普通紙500枚入り*5冊*1箱
		¥ 18,360	プリンター
		¥ 6,000	ワークショップ用(ペン、付箋紙、ネームプレート等)
		¥ 10,000	ポスター展示用パネル 2,000円×5枚
		¥ 15,000	活動に関する書籍
	食糧費	¥ 6,000	ワークショップ参加者用お茶・お菓子、アドバイザー用水代 1,000円×6回
	使用料	¥ 4,000	ワークショップ会場使用料 210円×4時間×3回 210円×2時間×3回程度
	通信運搬費	¥ 410	切手代 82円×5
		対象経費の合計(E)	¥ 181,270
(その他経費)			
	その他経費の合計額(F)	¥ 0	
	合計額(G)=(E+F)	¥ 181,270	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×868円
	公共サイン定期便企画打合せ	17,360 円	5 人 × 1 h × 4 回 × 868 円
	公共サイン定期便取材	52,080 円	5 人 × 3 h × 4 回 × 868 円
	公共サイン定期便執筆・編集	52,080 円	5 人 × 3 h × 4 回 × 868 円
	ワークショップ企画打合せ	26,040 円	10 人 × 1 h × 3 回 × 868 円
	ワークショップ事前準備	78,120 円	10 人 × 3 h × 3 回 × 868 円
	ワークショップ実施	187,488 円	12 人 × 3 h × 6 回 × 868 円
	アドバイザーとの打合せ	3,472 円	2 人 × 1 h × 2 回 × 868 円
	公共サインガイドライン基礎資料作成	26,040 円	5 人 × 2 h × 3 回 × 868 円
			人 × h × 回 × 868 円
			人 × h × 回 × 868 円
			人 × h × 回 × 868 円
			人 × h × 回 × 868 円
			人 × h × 回 × 868 円
			人 × h × 回 × 868 円
			人 × h × 回 × 868 円
		人 × h × 回 × 868 円	
		人 × h × 回 × 868 円	
合 計 (A)	442,680 円		